

次世代都市交通WGでの議論要旨

内1⑤「次世代都市交通システムの速達性・安全性に係る調査」

討 議 論 点	本施策は、昨年度に引き続きパシフィックコンサルタンツが採択された。 昨年度：・ART優先通行のためのPTPS用車載機の機能要件整理 ・PTPS導入時の速達性に関するシミュレーションによる効果評価 今年度：・具体的で複雑な条件設定（複数のART車両の優先順位調停、優先順位の高い緊急車両の到来、等）の幅を広げ、全国の様々な道路条件を踏まえたシミュレーションを実施 ・上記を踏まえ、実現性と有用性の高いPTPS制御方式を提案 ・PTPS車載機の詳細仕様を決め、ハード・ソフト試設計を実施 複数のARTに対する優先権付与については、海外事例も参考にして乗客数の多少、遅延時間の大小、交差点への進入順位等について妥当性の検証を行う
WGの 主 な 議 論	シミュレーション時の評価指標は何か。運行ダイヤの順守率というのもあるが、ある交通流を優先すれば、非優先側が犠牲になることもあり、全体のバランス的な評価尺度も必要になる。 ⇒ ご指摘の難しさは認識している。ART側は旅行時間、停止回数、設定した旅行時間からのズレ等を指標としてPTPSの効果を評価しつつ、周辺的一般交通についても、同様の指標や総待ち時間のような指標で影響評価をしていく。 ⇒ 一般にバスは遅れを加味した運行ダイヤになっているが、PTPSによる速達性を加味した運行ダイヤを組めるようになるなら、社会的価値が大きくなる。 ARTは「R=Rapid」にこだわる必要がある。 ・スケジュールよりも早く来てしまっているバスをバス停で時間調整するのではなく、PTPSにバスダイヤをかませて制御するような統合的なシステム連携を検討してほしい。 ・バス停の設計と運用を含めた全体のサービス設計の視点をシミュレーションに反映すべき ・バスレーンに関しては、優先と専用では違いがあるので、シミュレーションも分けたほうがよい。